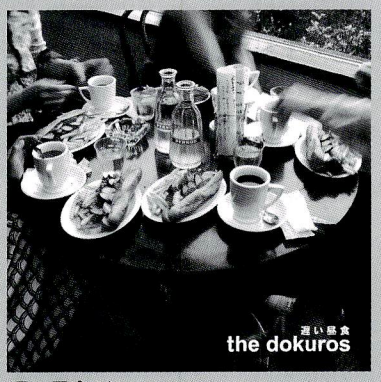


遅い昼食／the dokuros
XQFE-1001　hanamauii records　2000円
今作に対する「浅川マキ meets ベック(or騒音寺)」というコピーが的を射ているので拝借。その絡みついてくるクセのある、クセになる感じは、「現行の関西ギャルバン」繋がりなら、ゑでぃまぁこん、あふりらんぽあたりとも連鎖する。「私にとって京都はどんとやチャー坊を生んだ憧れの町」(おやびん)というルーツも見え隠れしてる

取材・文／中谷琢弥

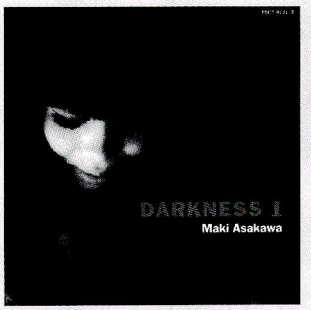
the dokuros
ザ・ドクロズ

'95年に京都の嵯峨美術大学にて結成。決してキャピキャピしない本格派・女・ロックバンドを作ろう、と意気投合。「ロックは女のためにある」をスローガンに活動開始。メンバーは写真右からアサコ(vo／g)、クー(g)、おやびん(b)、シカイ(dr)。くるりのオープニングアクトや、うつみようこ、騒音寺、桑名晴子、ママスタジヲなどとも共演している。
http://dokuros.hippy.jp/

「遅い昼食」発売記念ライブ「ちょっと死ぬツアー」
9／28(Sun) at 大阪・十三FANDANGO
10／4(Sat) at 京都 UrBANGUILD

PPS
POWER PLAY SOUND
Music is moistened our life.Tasteful album is here.
W'd like to find your recomended one.

recomend01

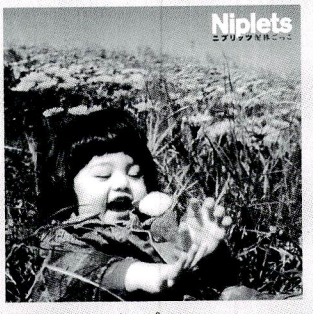


DARKNESS I／浅川マキ
EMIミュージック・ジャパン　4950円
ジャズ～ブルースのシンガーであり、寺山修司も惚れ込んだ才能。いや、「永遠のあこがれ。日本の宝物」(アサコ)という言葉の方が浅川マキの輝きを伝えられるだろうか。暗闇を愛する人なら避けては通れない音楽なのだ。

recomend02

Radio Pascani／Fanfare Ciocarlia
Piranha　2911円
ルーマニアの疾走感漲るジプシー・ブラス・バンド。10／18にはびわ湖ホールで来日公演も！「この人たちにとって生きることは音楽そのもの。私も楽しまなくちゃ人生損するわ！と助けてもらった1枚」(シカイ)

recomend03



泥棒ごっこ／ニプリッツ
HOREN　2625円
裸のラリーズ、頭脳警察、という失禁もののバンドに参加してきた男、ヒロシ Na 率いるニプリッツは、クーによるセレクト。スペースの関係上省いたが、おやびんはボ・ガンボスの名盤「BO&GUMBO」を挙げてくれた。

今日も定時にランチできなかった女性たちに京都のギャルバンの唄をこっそり贈りたい

浅川マキとゆらゆら帝国が、お互い京都の学生として出会い、その10年後に奏でた音楽。またはボ・ガンボスや村八分から脈々と続く「狂都」音楽界の流れを、女性にしかない感性で鳴らせてみせた空気感。京都ライブハウス・シーンのなかで、凛とした輝きを放つギャルバン、ザ・ドクロズが4枚目となるアルバムをリリースした。

「3枚目と5枚目の間である、ということみたい。3枚目で飛び出して4枚目でゆっくり後ろ振りむいて、5枚目で潜る、なのかなぁ」(シカイ)

これまでよりも歌やメロディに焦点が当たった、抜けのいい1枚。ある種、無防備ですらある瑞々しい楽曲群が並んでいるのには、ハッとさせられる。その一方、ねっとりアンニュイでもある、という肌触りは、あいかわらず彼女たちならではなのだ。

「アルバムをつくるときにはいつも、その時代の音・質感を取り入れるように意識してる。とはいうものの芯がブレるってことは絶対ないし、どんな音や質感でも the dokurosでいられる強みはある」(アサコ)

また、京都を指して「the dokurosを生んでくれた、うちらのお母さん。一番嫌いやし、一番好き」(アサコ)という言い回し然り、言葉の選び方も魅惑的だ。例えば「気をひくためだけの唄」「ちょっと死ぬ」というタイトルや、後者の歌詞にある「青のしまシャツ裏返る／口から裏返る」というフレーズひとつをとってみてもそう。また、「びしょぬれ」「水たまり」「ぬれた」など、雨を連想させる歌詞が多いのは今作の特徴かもしれない。

「それはたまたまですが…。雨が降る前や降った後って、女心と重なる点が多いから、無意識にそういう歌詞を書いていたのかも」(アサコ)

というように同性へは意識的だ。アルバム・タイトルの「遅い昼食」にも、その思いが透けて見える。ステージで軽やかに激ディープなロックをかき鳴らすのも、こうした女心も、どちらも彼女たちなのだろう。

「忙しい日々のなか、定時に昼食がとれることはまずない。休みの日、ありえへん時間に起きて、夕方とかに朝昼兼用のご飯を食べたりする(笑)。やっと遅い昼食をしながら、悶々と思いを巡らすあの感覚が、このタイトルで伝わればいいなって」(アサコ)

「現実と理想の間でいろいろ悩んでたりする危うい感じの、そういう同世代の女の人に聴いてもらいたい」(おやびん)